

会社の情報を守る基本的な対策



標的型攻撃メール等により、ウイルス等の不正プログラムに感染し、会社の情報が漏えいする被害が後を絶ちません。大切な情報を守るため、今できる基本的な対策のひとつを紹介します。

ポイント

OS等のソフトウェアのアップデート

●最新版にアップデート

ソフトウェア（Windows等のOSやMicrosoft Office、Adobe Reader等のアプリケーションソフト）の多くは、脆弱性を修正するプログラムを自動的にアップデートする機能を持っています。ウイルス対策ソフトに加え、こうした機能を有効にして、ソフトウェアを常に最新の状態に保ちましょう。

●バージョンの確認

お使いのソフトウェアのバージョンが最新の状態であるかを把握されていますか？IPAは「MyJVNバージョンチェッカ※」という簡単な操作で使えるツールを無償で公開しています。このようなツールでバージョンの確認が可能になります。

※IPA（独立行政法人情報処理推進機構）が無償で公開している脆弱性対策情報データベース
詳しくはこちらのURLをご覧ください→ <http://jvndb.jvn.jp/apis/myjvn/>

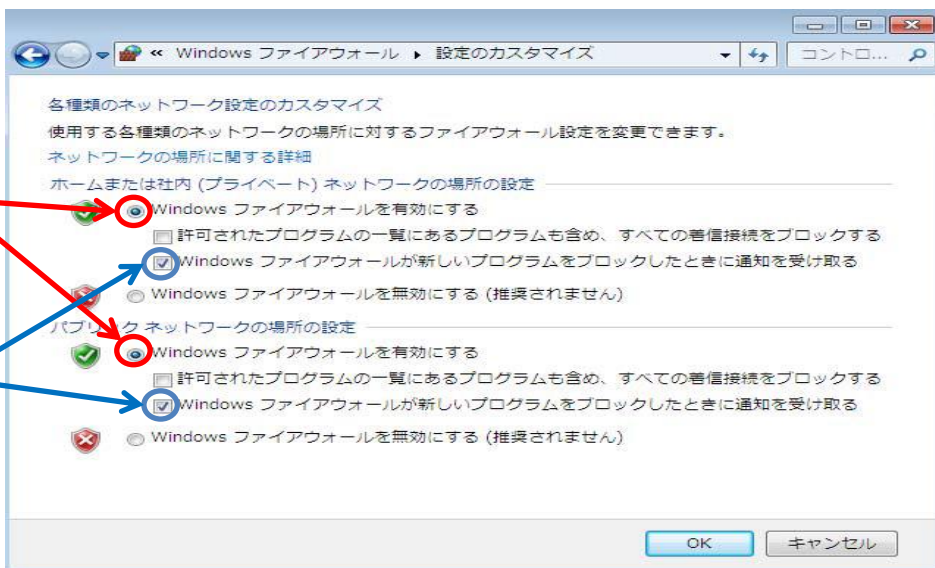
●パーソナルファイアウォールの導入

ウイルス等の不正プログラムの感染に備え、パーソナルファイアウォールを導入し、出口対策（外部ネットワークからの侵入、内部から外部への通信の検知や遮断）をしておけば、万が一被害に遭った場合、被害拡大防止につながります。

■Windows7設定例

Windowsファイアウォールを有効にします

Windowsファイアウォールが新しいプログラムをブロックした時に通知を受け取ります



※情報セキュリティ対策セミナー(Ksisnet主催)における株式会社ケーケーシー情報システム大財健治氏講演資料から作成

京都中小企業情報セキュリティ支援ネットワーク(Ksisnet)
IT相談窓口（公益財団法人京都産業21 お客様相談室）

相談内容：情報セキュリティ対策、情報漏えい・流出事案等
※毎週月曜日～金曜日の9:00～17:00（祝日を除く）

TEL 075-315-8660 メールアドレス okyaku@ki21.jp

公益財団法人京都産業21 お客様相談室（〒600-8813 京都市下京区中堂寺南町134 京都府産業支援センター内）

お困りの
ときは!!